7　晩　　年

日本の敗戦は、朝河にとってもショックでした。彼は日本の友人からの手紙で、日本の混乱を知り心を痛めたのでした。その後、彼は日本の復興を願いながら、より一層研究活動に力を注いだのです。

イェール大学定年退職後の、朝河の研究に向かう心は、以前にも増して厳しさを加えていきます。彼は、朝6時から夜は8時すぎまで、午後の大学キャンパス内の短い散歩をはさんで、研究を続けたのでした。

このころ、彼の散歩は、むかし妻と二人で住んだ家、二人で散歩した公園、それに二人の思い出の場所などへ出掛けるようになっていました。公園では、二人で一緒に座ったベンチに腰をおろし、楽しかった日々のさまざまな思い出をたどったりしたものです。

1948（昭和23）年夏、朝河はいつものように貸別荘グリーン・マウンテン・ハウス（バーモント州ウエスト・ワーズボロ）へ向かいました。相変らず「夏休みの仕事」をたくさん抱えて学問（このことばを非常に好んだ）に励んだのです。

8月11日の明け方、彼はだれにも見とられることなく、ひっそりと息を引きとりました。死因は心臓発作、数えで76歳の生涯でした。訃報（ふほう）は全世界に伝えられ、「現代日本が生んだ最も高名な世界的学者 Dr. Kan'ichi Asakawa が」と表現しながら、その死去を報じました。また、日本占領アメリカ軍の新聞「星条旗（スターズ＆ストライプス）」にも、哀悼の記事が載せられました。彼の死去の報道はこうして世界中をかけめぐったのです。

その死去の知らせが日本に届いた時 Dr. Kan'ichi Asakawa を、祖国日本の新聞はそろって「浅川貫一」と誤った漢字で紹介してしまったのでした。世界的な業績を残しながらも、日本ではほとんど知られていなかったのです。

朝河の遺体は大学葬をもって、グローブ・ストリート墓地に運ばれ、夏休み中にもかかわらず、かけつけた数多くの同僚・友人に見守られながら、永遠の眠りにつきました。

故郷の二本松にも、彼の甥の斎藤金太郎氏が金色墓地に、朝河と妻美里安（ミリアム）の墓を建てて冥福を祈りました。また、当時の遊佐一郎町長を会長として顕彰会ができ、1949（昭和24）年には、1周忌記念大講演が行われました。そして、父が朝河と同